

西村陶業、海外比率50%に

31年4月期
売上高 半導体関連を開拓



【京都】西村陶業 嘉浩社長は、北米を中心に欧州やアジア圏の市場開拓を進め、海外売上高比率を2031年4月期に現状比20%増の約50%に引き上げる。

▲ワークをチャックに置くことで固定できる（写真はチャックのデモ機）

に高める。各地の事業拡大に向けた体制は外部の協力も得る形で整備済み。半導体関連部品の需要など取り込むほか、商社機能も強化する。

一環。北米は前期も好調で、けん引役の半導体前工程向け装置用部品と対象物（ワーク）を吸着して固定するチャックの販売は今期も増える見通し。チャックは今後、フィルムや食品包装材の搬送など新用途を開拓して多様な業種の需要を取り込む。同社はすでにカリフォルニア州サンノゼの共用オフィスに拠点構え、このほどテキサス州で現地顧客対応を委託する担当者を

と契約し体制を強化した。このほか、欧州や台湾、シンガポールを含めた国・地域でも代理人を通じ、販売や支援体制を整備。社内でも多言語対応ができる社員を増やしている。商社機能強化では、国内の中小企業を持つ特殊な素材や工業用部品などを海外に紹介するウェブサイトなどの構築を検討する。西村陶業の検査体制を生かして品質を担保し、海外需要に応える。